



研究資料：スイス宗教的民謡11題

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学 公開日: 2014-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂西, 八郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/3342

研究資料： スイス宗教的民謡 11 題

坂 西 八 郎

Forschungsmaterial: 11 Geistliche Volkslieder aus der Schweiz

Hachiro Sakanishi

Zusammenfassung

Das Volkslied aus der Schweiz war bisher in Japan fast unbekannt außer einigen verwässerten und bearbeiteten Jodelmelodien. Die wissenschaftliche Behandlung darüber darf folglich keineswegs erwartet werden. Als schwerer Ansatz derselben werden hier 11 Geistliche Volkslieder ins Japanische übersetzt und gezeigt. Die Texte und ihre Melodien sind aus: Alfred Leonz Gaßmann, „Was unsere Väter sangen“. Volkslieder und Volksmusik vom Vierwaldstättersee, aus der Urschweiz und dem Entlebuch. Nach dem Volksmund in Wort und Weise aufgezeichnet von A. L. Gaßmann. Herausgegeben von der Schweizerischen Gesellschaft für Volkskunde. Basel: G. Krebs Verlagsbuchhandlung 1961. 342 S., IX m. Mel.

Herrn Prof. Dr. Th. Immoos, Sophia-Uni., Herrn P. Kamer, Pro Helvetia und besonders Frl. B. Roth (aus Sankt Gallen), OMF danke ich bestens für die freundliche Unterstützung bei dieser Arbeit.

1. Der alt Englisch Gruß

Andächtig Muotathal 1932

Ge - grüßt seist du, Ma - ri - a, jung - fräu - li - che Zier!

Du bist ja voll der Gna - den, der Her - re ist mit dir.

Ei - ne ganz neu - e Bot - schaft, ein un - er - hörts Ding:



2. Was sind das für Reden?
Was soll denn dies sein?
Wer ist denn gekommen
ins Schlafzimmer ein?
Erschreck nicht, Maria,
es geschieht dir kein Leid.
|: Ich bin ja ein Engel, verkünde dir die Freud! :|
3. Du sollest empfangen
und tragen einen Sohn,
nach welchem Verlangen
viertausend Jahre schon.
Maria hat gefunden
bei Gott alle Gnad,
|: den Sünder durch Fürbitt erworben sie hat. :|
4. Frohlocket, o Himmel!
Frohlocket, o Erd!
Das höllisch Getümmel
zerstört schon war.
Gegrüßt seist du, Maria,
jungfräuliche Zier!
|: Du bist voll der Gnaden, der Herr ist mit dir. :|
5. Nun hört, ihr Jungfrauen,
und merket's euch dann:
Ihr sollet nicht haben
vorhere einen Mann,
bis der Herr Pfarrer euch gebe
mit geistlicher Hand
|: den Segen zum Leben im ehelichen Stand. :|

1. 古い天使祝詞

1. 今日は、マリヤ様、
清き乙女!

あなたは神の恩寵を一杯にうけた方です、
神はあなたと共にいらっしゃいます。
全くあたらしい使命を、
聞いたこともないことを、
|: 天の宮廷から わたし、
ガブリエルは、あなたにもたらしめます。:|

2. それは何の話ですか？

それは一体何のことですか？
来たのは一体誰ですか
寝室の中に？
びっくりしないで下さい、マリヤ様、
あなたにとって悲しいことは何もおこりません。
|: わたしは天使なのです、
あなたに喜びを告げるのです!:

3. あなたは (この喜びを) 受け入れ、
子供をみごもらなければならないのです、
こういうのぞみを (みな) その子に、
何千年もまえから (かけていました)。
マリヤは思ったのです
神のもとにまったき恩寵があると。
|: 罪人を祈りによって
彼女はええました*:|

* 人々 (= 罪ある存在) を地獄から天国へとみちびくため、人々のため
にマリヤは祈りました。(このうたはカトリックの教義を示す)。

4. 歓喜せよ、おお天よ！
歓喜せよ、おお地よ！
悪魔のさわざは

すでに打ちやぶられました。

|: あなたは神の恩寵を一杯うけた方です、
神はあなたと共にいらっしゃいます。:|

5. いざ聞きなさい、乙女たちよ、

そして心に留めなさい:

あなたたちは

牧師があなたたちに

聖職者の手によって許すまでは

結婚してはなりません、

|: 結婚の

生活の祝福を:| (与えるまでは)。

蒐集時におけるこのうたの歌手は、テレズィア・ベチャルト-フューン夫人 (1855 年生) Theresia Betschardt-Föhn とテレズィア・ベチャルト-ベチャルト夫人 (1868 年生) Thereisia Betschardt-Betschardt, そしてムオタタール Muotathal で 1932 年に記録された。

ヴァリアンテとしては、第 2 詩節の第 1 および第 2 詩行: 「戸は閉まり、窓々も閉まっている」 Die Tür ist verschossen, die Fenster sind zu; 第 4 詩節: 第 5 および第 6 詩行はひざまづきうたわれる; 第 5 詩節は明らかに後の時代の付け加えである。上記歌手たちの言明によれば、この詩節は、「世の中がよくなってから取りはずされた」という。上記の高齢の夫人たちは、この尊いうたをすでに子供の頃、当時 86 歳であったベチャルト-フレンツリ Betschardt-Fränzli から、ヒンタータール Hinterthal, ケッペリ Käppeli の聖母月の祈りの際聞き、しばしばいっしょに「うたった」 mitglürälät のであった、という。

メロディーは、古いマリアの祈り Marienruf かマリアの讃歌 Marienpsalter に依拠している。これらの古いうたは 15 世紀以来いろいろなうたに根拠をとどめている。例えば、巡礼のうた「神の名において、われわれは巡礼をする」 In Gottes Namen fahren wir およびフランツ・フォン・アッスィスイのうた「ようこそザンクト・フランツィッセ、福音派の人よ」 Gegrüßt seist Sankt Franzisce, du evangelisch Mann などそうである。うたの個々の場所は宗教歌の「いとしきマリア」 Maria zu lieben に関連する、これは、EB Nr. 2019, 2052, 2083 およびボエーメ Böhme の Altd Ldlb Nr. 574 を参照されたい。

ドイツとオーストリアにおける 17 世紀以降のこのうたの伝播状況は、ボィムカー Bäumker III 39 Nr. 67, クリーア Klier の Burgenland Nr 2. およびパイラー Pailler Nr.

372 を参照。

スイス中央の 1775 年以降については、クルティ Curti 3, またバウムベルガー Baumberger 103 頁以下, シュテックリー Stoecklin Nr. 13/14 を参照されたい。

「スイス民謡文庫」SVA: ブリスラッハ Brislach BE: ザンクト・ガラー・オーベルラント St. Galler Oberland; ムオタタール Muotatal SZ; アルトドルフ Altdorf UR; ガムペル Gampel, ロエツェンタール Lötschental, トゥルトマン Turtmann VS.

2. Schalmeien

Muotathal 1932

Jubelnd

Nun ge-het, ihr Hir-ten, und lau-fet in Reih'n, nun
neh-met Schal-mei-en und spie-let recht

2. *rit.* fein! Ge-het al-le in Reih'n und spie-let recht fein!

a tempo
nach Beth-le-hem zum Krip-pe-lein, zum Je-su-lein im Stall!

2. Hab ein Kindelein gesehen,
wie ein Engel so schön,
und neben ihm ein Vater
tut freundlich da stehn.
Ein Jungfrau gar zart
in himmlischer Art!
[: Es hat mich erbarmet das Kindlein so hart.:]
3. Mein Nachbar, lauf hurtig,
bring's Wiegelein daher!
Will's Kindelein drein legen,
es zittert so sehr.
Heia, heia popei!
Liebs Kindelein, schlaf ein!
[: Im Krippelein zarts Jesulein, hei, heia hei popei!:]

2. あ し 笛

1. さあゆけ, 牧者よ
列に入れ,

さあ笛をとり
 美しく奏け！
 みな列に入れ、
 そして美しく奏け！
 ベツレヘムのかいば桶めざし、
 馬小屋の小さなイエスめざし行け！

2. (わたしは) 子供をみました、
 天使のように美しい子供を、
 かれの側には父が
 親しみをこめて立っていました。
 乙女（マリヤ）はほんとうにやさしく
 天使のような仕草をするのです！
 |: かわいそうでした
 子供が堅い（ベットに入っていて）:
3. わたしの隣人よ、いそぎゆきなさい、
 笛をかいば桶の揺りかごの所にもって！
 わたしが子供をなかに入れようとすると、
 子供はこんなにこきざみにふるえている。
 ハイヤ、ハイヤ、ポーパイ！
 可愛い子供よ、ねむりなさい！
 |: かいば桶のなかには柔らかな可愛いイエス、
 ハイ、ハイヤ、ハイ、ポーパイ!:

このうたは、ベチャルト＝フェーン夫人 Betschard-Föhn, ムオタタール Muotathal 在住、によりうたわれた。すでに白髪となったこの夫人は、このクリスマスのうたをあまり確実に思い出せなかった。というのも、このうたは、かの女の祖母がクリスマスの時期によくうたっていたものであるから。メロディーと第1詩節はまだ記憶に残っていた。かの女がその先をつづけようとするとうとうもうまくゆかない。そこで第2詩節以下は、ピウス・スッテル Pius Suter が補足した。かれは、それほど古いうたであるとは思っていない。

なかった。さて問題は、このうたに用いられる笛が、フォールアルペン Voralpen の地域の牧童たちが前世紀の 50 年代までよく用いていた、そして今日のクラリネットにより駆逐されてきた一種の山笛 Bergschalmei を証拠だてているのかどうか、ということである。この山笛は、今日なおオーストリア・アルペン地域、アペニン地方や南イタリア地方で用いられている。

民俗楽器としてのスイスのあし笛コレクションは、トリプシェン Tribtschen, ベルン Bern およびバーゼル Basel の博物館にある。

このうたについては、ハンス・イン・デア・ガント Hans in der Gant の「スイスにおける民俗的楽器」Volkstümliche Musikinstrumente in der Schmeiz SAVK 36 (1937), 113 頁以下; バーゼル歴史博物館カタログ第 IV, 167, Nr. 70-72 を参照されたい。

3. Weihnachtslied

Langsam Schüpfheim 1906

Ihr Hir-ten, er-wacht vom Schlummer, habt acht! Nach

Trüb-sal und Lei-den ver-kün-det er Freu-den:

a tempo

der En-gel, der fröh-li-che Bot-schaft ge-bracht!

2. Jetzt eilet geschwind,
ihr findet das Kind,
ihr findet das Leben,
es wird euch gegeben:
[:der Heiland, der alle zur Liebe verbindet.:]
3. O fürchtet euch nicht!
Ein göttliches Licht
begleitet die Sonne
mit himmlischer Wonne:
[:der Frieden und Freude und Leben verspricht.:]
4. Zu Bethlehem dort,
im kältesten Ort,
da werdet ihr finden,
was wir euch verkünden:
[:das längst schon versprochene göttliche Wort.:]

5. Ihr Sünder, erwacht !
 Die heutige Nacht
 hat nach vielen Sorgen
 den goldenen Morgen,
 |: den Herzog, den Heiland und Mittler gebracht. :|
6. O göttliche Zeit,
 die alle erfreut !
 Sie lindert die Schmerzen,
 sie wecket die Herzen
 |: zum Danke, zur Liebe, zur himmlischen Freud'. :|
7. Eilt, Christen, geschwind,
 mit Liebe entzünd't !
 Eilt, Büßer und Sünder,
 ihr Eltern und Kinder,
 |: bringt dar die Gebete dem göttlichen Kind ! :|

3. クリスマス

1. 牧童たち* よ、眠りからさめ、よく聴きなさい !
 苦悩のあとにかれは喜びを告げるのです :
 天使が、嬉しい報せをもってきました !
 * ベツレヘムの牧童たち。
2. さあ急ぎましょう、
 あなたたちは (神の) 子を見つけるのです、
 あなたたちは生命^{いのち}をみ出すのです、
 生命^{いのち}はあなたたちに与えられました。
 |: 救いの主、キリストはすべてを愛に結びつけるのです。 :|
3. おおあなたたちは恐れることはありません !
 神々しい光が
 太陽からさしてくるのです
 その光は天国にいるような歓喜を与えます :
 |: 神は平和と喜びと生命を与えます。 :|

4. ベツレヘムのあそこに、
さむいさむい所に、
そこにあなたたちはみつけるでしょう。
わたしたちがあなたたちに告げ知らせたものを：
|: ずっと昔から約束された神の言葉を。:|
5. あなたたち罪人よ、眠りからさめなさい！
(クリスマスの) この聖夜は
沢山の心配ごと*のあとに
黄金のすばらしい朝**を、
|: 救いの主、キリストをもたりました。:|
- * 日常の不安、心配ごと以上の意味はなし。
** 普通は快晴の日の意。ここではキリストを意味する。
6. おお聖なる時 (クリスマスの日)、
みなこれを喜びます！
この時は、いろいろな苦悩をやわらげ、
人々の心を目覚めさせるのです
|: 感謝えと、愛えと、天国の喜びえと!:|
7. 急ぎましょう、キリストを信ずる人々よ、さあ急ぎましょう、
あなたたちは愛の火をともされているのです！
急ぎましょう、贖罪を志さず人も罪ある人も、
あなたたちの両親も子供たちも、
|: 祈りを神の子に捧げましょう:|

このうたは、元州長官アントーン・シュミート Anton Schmid により、シュップフハイム Sküpfheim で1906年にうたわれた。このうたは、しばしばシュップフハイムの教会や90年代に至るまでは巡回のクリスマス歌手たちによってうたわれた。

オーストリアにおける伝播については、クリーア Klier の Weihnachtslieder Nr. 57; パイラー Pailer Nr. 163 以下; ウェービンガー Webinger Nr. 3 を参照されたい。

スイスにおける伝播については、ガスマン Gaßmann の Wigg Nr. 1; シュテックリン Stoecklin Nr. 27 を参照されたい。

「スイス民謡文庫」SVA: フィシュバッハ Fischbach, グロースディエットヴィル Großdietwil, ヴォルホーゼン Wolhusen LU.

4. Abdankung

Sehr langsam Vitznau 1903

Hel - set - is ei Schil - lig, und gänd is der mit guet

rec.

Wil - le! D'Chrüzwirtene treid es Hübli wüß,

rit.

si dienet Gott mit gan - zem Fliß. A - men.

2. Helsetis ei Schillig,
und gänd is der mit Wille!
De Chnächt, er treid es neus Paar Schueh,
er gohd au flüssig der Chile zue. Amen.
3. Helsetis ei Schillig,
und gänd is der mit Wille!
Und obem Huus, da waltet Gott,
e guete-n-Abig geb Ech Gott. Amen.
4. Helsetis ei Schillig,
und gänd is der mit Wille!
Die Magd, si treid es Bätti ganz,
si bättet gärn de Rosechranz. Amen.

4. 告 別 歌

1. 一シリング わしらに寄捨しなさい,
御好意をお示しあれ!
十字屋*のおかみは白いボンネット**をかむり,
一生懸命神様に尽す。
アーメン。

* 人々が葬式のあとでたまたま十字屋というレストランで一杯飲むという情景。

** ウェイトレスが頭にのせる白い布。

2. 一シリング わしらに寄捨なさい、

御好意をお示しあれ！

下僕はあたらしい靴をはき、

実直に教会に行く。

アーメン。

3. 一シリング わしらに寄捨なさい、

御好意をお示しあれ！

家*の上には、神が支配し給う、

神があなたたちのために、この夕べを祝福し給うよう。

アーメン。

* 死んだ人の家。

4. 一シリング わしらに寄捨なさい、

御好意をお示しあれ！

娘はロザリオをしっかりと持っている、

かの女はロザリオのお祈りをするのが好き。

アーメン。

このうたは、フランツ・ツィムメルマン Franz Zimmermann, 通称フランツ親父 Wirts Franz から、ヴィツナウ Vitznau で1903年に記録した。「われわれに贈る」helset is は、ヴァリアンテとしてしばしば「どうぞ、贈り物です」Nun Schenkio とうたわれた。このうたの提供者は、はじめテキストしか思い出せなかった、しばらくあとで古い教会歌のメロディー形式が思い浮かべられた。ここにあるうたは、そのメロディー形式にもとづいて復元されたのであった。巡回のクリスマス歌手たちも、前世紀の70年代までは、このうたのような「告別歌」Abdankung を家々の前でうたった。沢山のレパートリーをもち、聴衆の要求に応じて、あるいはこれ、あるいはあれと選んでうたったのである。その礼金としては、一枚か二枚の硬貨をもらった。讃美歌風のメロディーは、カトリック教会の夕べの祈禱のうたをもじったものである。

5. Muotathaler Neujahrslied

Langsam, getragen

Muotathal 1929

Mir fa-hids a und stand scho da, mir wünschid an al-len äs
guets nüs Jahr. An gue-ten A-bend gäb is Gott, mit Sti-fel und
Spor-re hoch zu Roß, mit Sti-fel und Spor-re hoch zu Roß!

2. Das Huus stahd uf der Muurä,
mir singids denä riichä Buurä.
Das Huus, das ist mit Schindlä deckt,
|: mir hend das ganz Huusvolch verweckt.:|
3. Die Frau, die hed äs suubers Huus,
äs lauft kei Muus dur Stubä-n-uus;
die Frau, die hed ä gradä Gang,
|: die Stubä-Dili ist lädälang.:|
4. Der Huusvater träit ä hochä Huät,
et ist in alle Ehrä guät.
Der Huusvater sitzt im Fäderäspil,
|: er hed äs Fraueli, wenn er will.:|
5. Die Annä, die träit äs Chräzli vo Gold,
es ist irä ä schönä Knabä hold.
Wohl hinter dem Gläsli, da brünnt der Wii,
|: es möcht der Josepp Betschartli si.:|
6. Der Vereli träit ä Meie vo Gold,
es ist im ä hübschi Jumpferä hold.
Whol hinter dem Gläsli brünnt der Wii,
|: es möcht die Mari Betschartli si.:|
7. Mir stiigid ufä bis unter s'First,
si hauet is abä Speck und Würst.
Mir ghörid das Chübeli dräheä,
|: si wend is äs Nideli bläheä.:|

8. Mir grörid das Schlüsseli chlinglä,
si wend is no Nüsseli bringä.
Mir ghörid der Chastä versperä,
|:si wend is zwei Batzä verehrä.:|
9. Der Himmel und der ist heiter Glanz,
mir bätid gärä der Rosächranz.
Zum Herrgott wiit über der Erde,
|:es söll, Gott-bhüet is, so werde.:|

5. ムォタタールの新年のうた

1. われわれは新しい年を（暮し）はじめている、
（＝新年がはじまった）。
われわれは皆によき新年をのぞむ。
（＝新年おめでとう、みなさん）。
神がよき夕べをわれわれに与えますよう、
（＝ああ神さま、おかげさまですばらしい晩です）。
|: 拍車のついた靴をはき、馬の背たかく! :|
（＝拍車のついた靴をはき、馬に乗ってでかけましょう）。
2. 家は壁* の上に立っている、
われわれは金持の農民** にうたいかける、
家は板ぶき屋根、
|: われわれは家中の人を眠りから起した! :|
* 高い石（現代はコンクリートの）高床の家。
** したがって大きな農家の前で。
3. ねずみは部屋を走りぬけない；
磨きたてた家のこの主婦は、
ちゃんとした身なりをしている。
|: よろい戸の長さは部屋の床まで。

4. 親父さんは高い帽子*をかむり、
 みなを尊敬をうけている。

親父さんは全能**だ、

|: のぞんだ時に娘 (=奥さん) をもらった。:|

* むかしは權威のシンボルとして用いられた。

** 原語: sitzt im Fäderäspiel = 羽根のあそびのできる立場にいる。
 羽根ぶとんを厚くしたりし (人に圧力をかけたり), うすくしたり
 (ゆるめたり) できる。現代は Fäderäspiel はバトミントンの意で、
 全く無関係。

5. アンネ (アンナ) はブロンドの髪をおばこ*に編んでいる、
 かの女には美しくやさしい少年。
 グラスのなかには燃えるようなワイン、
 かの女はヨーゼップ・ベチャルトリをのぞむ。

* 髪を頭のうえに上げ、交ささせて止める。

6. ヴェレリ (フェルディナント) は金色のチョッキを着ている、
 かれには美しくやさしい少女、
 グラスのなかには燃えるようなワイン、
 かれはマリ・ベチャルトリをのぞむ。

7. われわれは家の棟下*までのぼる、
 家の人たちはわれわれにベーコンとソーセージを切りとってく
 れる。
 われわれはバター桶をかきまわすのをきく、
 家の人たちはわれわれにできた生クリームをくれようとする。

* そこに薫^{クン}造室がある。

8. われわれは鍵の鳴る音をきく、
 家の人たちはその上なおくるみもくれようとする、
 われわれは棚のきしむ音をきく、
 |: 家の人たちはわれわれに二バツツェンの銀貨をくれようとする。:|

9. 天は星にかがやいている,
われわれはロザリオをもって祈る気持になる。
地上のはるか上にまします神,
|: よい年であれ, 神よわれらをまもり給え。:|

このうたは、ベツチャルト Betschardt 姉妹とペーター・スッテル Peter Suter から、ムオタタル Muotatal で 1929 年に蒐集された。

このうたは通常家の玄関でうたわれる、そして詩節はその家のつくり、家族員に合わせてうたわれる。[したがってここに無数のヴァリエーションが生じうる]。メロディーも、上記の人々やその他のこのうたをうたう人々の間で一致しはしなかった。数人の人は、変ホ長調の装飾をつけながら変ロ長調でうたった。結局、ここに掲載したメロディー型におちついたけれども。このうたは 5 詩節以下で終ることはあり得ない、なぜならば、歌唱後の報酬とかかわり合ってくるからである。

このうたについては、EB III の Nr. 1184-1188; シュテックリー Stoecklin の Nr. 69 を参照されたい。

「スイス民謡文庫」SVA: ムオタタル SZ.

6. Charfreitagslied

Wehmutsvoll Muotathal 1932



Ma - ri - a Klag' war auch so groß; sie sah ih-ren Sohn ganz



nak - ket und bloß. Vom hei - lig - sten Haupt bis



un-ten an die Füß, und sich Got - tes - mut-ter er - bar - me muß.

¹ Variante



bis un-ten an die Füß, und sich Gottes-mut-ter er-bar-me muß.

2. Hang lind, lieber Jüngling mein,
und laß mich dir empfohlen sein!
|: Und führe sie weit und führe sie weit
und führe sie weit weg in Ewigkeit.:|

3. Maria hörte die Hammerschläg'.
Es tönte weit über das Feld hinweg.
|: Ach o wein', ach o weh, so groß wie alle Not,
jetz schlend si mir mis Chindelein Jesus tot.:|
4. Es truuret jo alles, was da ist.
Erbarme dich, o Herre Jesus Christ!
|: Die höchsten aller Felsen, wie beugen sie sich!
Die kleinen Waldvögelein, wie singen sie! :|
5. Gedenke, o Mensch, an die große Not,
da Christus gelitten den bittersten Tod.
|: Sie schenkten ihm ja Essig und Galle ein
und gaben's ihm zu trinken für den besten Wein.:|
6. Und wer das Liedli no singe cha
dur eusers Täläli uif und ab,
|: der sing es alle Freietag ein einzigs Mal,
so wird Gott seine arme Seele nie verla.:|

6. 受難の日のうた

1. マリヤのなげきも大変大きかったのです；
かの女は息子の無残な姿をみました。
聖なる体の頭の上から |: 足の先まで、
聖母マリヤはあわれにおもったのです。:
2. 苦しみ柔いであれ、わが子よ、
そしてわたしを安らげよ！
|: そして(キリストを十字架にかけた) 人々を遠くに導きなさい
遠く永遠(の国に) 導きなさい。:
3. マリヤは槌で打つ音を聞きました。
その音は遠く野原を越えてきこえていきます。
|: ああ、我慢ならない、こんなにつらいことはこの世にない、
いまや人々はわが子のイエスを死ぬまで槌打つのです。:

4. そこにいるすべてのものが悲しみました。
 憐れみ給え、おお主イエス・キリスト！
 |: 高い高い岩も、主にひれふします！
 小さな鳥も、主を讃えうたいます！
5. 忘れまい、おお人々よ、あの大きな危難を、
 キリストは苦しい苦しい死を堪えたのです。
 |: 人々はキリストに酢や胆汁を飲ませようとし
 それが彼の最良のワインだったのです。:
6. この（受難の）うたをうたうことのできる者は、
 わが谷をあちらこちら（とうたう）者は、
 |: 受難の日ごとに一度はうたう者は、
 神がその貧しき心を救ってくれるのです。:

このうたは、1932年にムォタール Muotathal で、ヒュリタール Hürital のテレズィア・ベツチャルト Theresia Betschardt 夫人の復元をもとに蒐集された。

このうたは今日もなお家族ごとに、毎金曜日の夕方の祈りのあとでうたわれる。昔はこのうたは短調でうたわれたということであるが、今はもっぱら長調でうたわれる。その際このうたは、哀愁にみちたかつ敬虔な気持をこめた歌唱により、礼拝に似た受難の日の雰囲気をもつのである。

ある他の詞型で、テキストが次の詩行ではじまるものがある。

*Da Jesus (または Da Gott der Herr.../または
 Als unser Herr Jesus) im Garten ging,*

イエス（神が…/われらのイエス様が）庭を行くと、

このうたは損ねられている。第5節は、本来次のごときものであった（1590年）。

*Johannes, liebster diener mein,
 laß dir mein mutter befohlen sein!
 nimbs bei der hand und fürs hindan,
 daß sie nit sech mein marter an.*

[キリストの呼びかけ]、ヨハネス、わが忠実な僕よ、
 わたしの母をよろしくたのむよ！
 わたしの母の手をとり遠く連れてゆきなさい、
 わたしの苦しみを母がみないように。

ここから意味の不明瞭な

Hang lind, lieber Jungling mein

などの詩句が発生したのである。

なお、ボエーメ Böhme, Altd Ldb の Nr. 542 (もつとも初期のものは 1590 年のシュトラウビング Straubing のもの); リーリエンクローン Liliencron の Nr. 76; トーブラー Tobler の SVlder I の 83 頁以下, Nr. 6 は, *Ich will singen, ich weiß wohl was* の詩句ではじまる。

「スイス民謡文庫」SVA: ムオタタール Muotathal SZ; イズィコーン Isikon ZH.

7. Ein altes Kirchenlied

Langsam Schöpfheim 1906

Drei nur eins von E - wig - keit, in - u ex¹

glo - ri - ae! Das ist die hei - li - ge Drei - fal - tig - keit.

^{12.} keit. Sanc - tus, De - us², mi - se - re - re no - bis.

2. Der erste Gott, der Vater heißt,
inu ex gloriae!
Der erste Gott, der Vater heißt,
den Himmel und Erden preist.
Sanctus Deus, miserere nobis!
 3. Der zweite Gott heißt Gott der Sohn,
inu ex gloriae!
Der zweite Gott heißt Gott der Sohn,
der auf seinem Haupt trägt dörnerne Kron'.
Sanctus Deus, miserere nobis!
 4. Der dritte heißt Gott der heilige Geist,
inu ex gloriae!
Der dritte heißt Gott der heilige Geist,
den alle Welt so hohe preist.
Sanctus Deus, miserere nobis!
1. *Entstelltes Latein.*
 2. *Das Volk sang «Deus».*

1. くづれたラテン語。
2. 民衆は《デイウス》とうたう。

7. 古い教会歌

1. 三位は永遠の一体,
主なる神に栄えあれ!
これは聖なる三位一体。
聖なる神, われらを憐れみ給え。
2. 第一の神は, 父という,
主なる神に栄えあれ!
第一の神は, 父という,
天と地は彼を讃える。
聖なる神, われらを憐れみ給え。
3. 第二の神は息子なる神,
主なる神に栄えあれ!
第二の神は息子なる神
彼は頭にいばらの冠を載く。
聖なる神, われらを憐れみ給え。
4. 第三は聖霊なる神,
主なる神に栄えあれ!
第三は聖霊なる神,
全世界がこれを高く讃える。
聖なる神, われらを憐れみ給え!

このうたは, 87歳の州長官アントーン・シュミート Anoton Schmid から, 1096年シュ
ップフハイム Schüpfheim で蒐集した。

このうたは19世紀初頭にエントレブーフに拡まっており, それから教会でもうたわれ
るようになった。

第一詩節, 第二詩行の

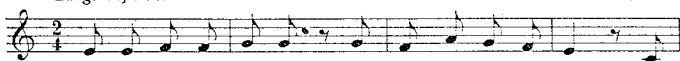
in uex gloria はおそらく

[*Deus rex*] *gloria* から発生したものであろう。

8. Die vier letzten Ding

Langsam, ernst

Escholzmann 1906



Laß uns fröh-lich sin-gen zum Schluß der Kin-de-lein: Von



den vier letz-ten Din-gen sin-get al-le zu Gott dem Herrn.

2. Das ander vo dene Viere,
das ist das strängi Gricht.
Da müesse mer alli Sünde bekenne,
es ist e kein Gedicht.

3. Das dritt' vo dene Viere,
das ist die fütürigi Höll;
da kommen's hin die Sünder,
Dort alles ewig brönnt.
Gedenket das, ihr Menschenkinder,
und hüetet euch vor Sünd¹!

4. Das viert', das bringt groß Freude,
das ist das Himmelreich.
Chönit ihr die Sünde meide,
wärdit dort dene Ängle gleich.

1. Für die beiden letzten Verszeilen wird die Melodie beider vorangehender wiederholt.

1. 最終 2 詩行では、先行する 2 詩形のメロディーを繰り返す。

8.

1. 楽しくうたおう
成人するのだから;
四終のはじめに
みな神を讃えてうたうのだ。
2. 四終の第二は,
厳しい裁き。

ここでわれわれ皆は罪を告白しなければならない、
これは容易なことではない。

3. 四終の第三は、
火の燃える地獄；
そこに罪人たちが入ってくる、
ここではすべてが永遠に燃えさかる。
忘れるではないぞ、人の子よ、
ゆめ罪を犯さぬよう！

4. 第四は、大きな喜びをもたらす、
それは天国。
君らの罪を軽くする（＝消す）ことができれば、
君らはそこで天使と同じくなるのだ。

このうたは、1906年エショルツマット Escholz matt で、ハンス・シェップフェル Hans Schöpfer から蒐集した。

第三詩節においては、第5および第6詩行のために後楽節のメロディーを繰り返す。

明らかに一つの詩節が欠除している。おそらく第二詩節であろう（*Das Erst*……という詩節またはそれに似たもの）。

9. Der Tod

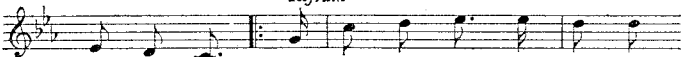
Schüp fheim 1906

Langsam



Der bitt - re Tod bin ich ge - nannt, im gan - zen Land gar

Refrain



wohl - be - kannt. Wo ich an - komm', muß al - les



dran, kein Mensch kann mir ent - flie - hen.

2. Den Jüngling nehm' ich bei dem Haar,
der noch will leben manches Jahr.
Refrain
3. Die Jungfräulein sind nicht zu fein,
ich denk' an ihren Hoffartsschein.
Refrain
4. Der arme Mann mit Weib und Kind,
sein Brot mit Schweiß, Arbeit verdient.
Refrain
5. Der reiche Prasser muß von der Welt.
Wo bleibt nun all sein liebes Geld?
Refrain

9. 死

1. おれさまは死とよばれていて、
国中によく知られている。
おれが御到着になると、
みんな死んでしまう、
誰もおれから逃げられないのだ。
2. 若い者でもその髪をつかむ、
まだ何年も生きたいのに。
リフレイン { おれが……
3. 乙女は美しくても美しくなくても、
その気取りざまが気に入くわん。
リフレイン { おれが……
4. 妻子をかかえた貧乏なやつ、
汗して働いてパンをかせいでも。
リフレイン { おれが……

5. 特意なお大尽も死んじまえ,
残ったゼニはどうなる, どうなる?

リフレイン { おれが……

このうたは、1906年にシュップフハイムで老州長官のアントーン・シュミート Anton Schmid から蒐集した。ある老助祭司は、かれのところに来て学んでいる子供たちが、いたずらの方に気がむいていて、自分の方に耳を傾けないときには、このうたをうたったということである。このうたのぞっとするような音調には、さすがの腕白小僧たちもこたえられないのである。このうたは、民謡というよりも芸術歌曲にかなった性格をもっている。

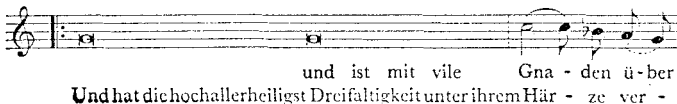
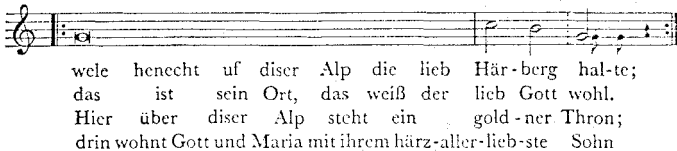
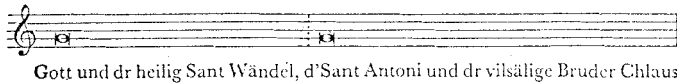
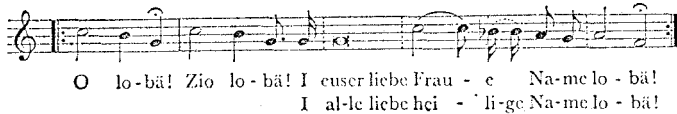
このうたの参考文献としては、グライエルツ O. V. Greyerz の, Totentanzlieder SAVk 25 (1925), 166 頁以下が挙げられる。

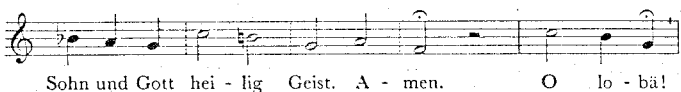
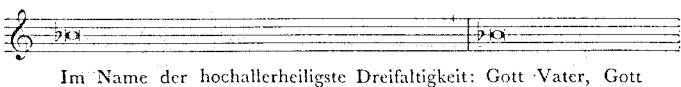
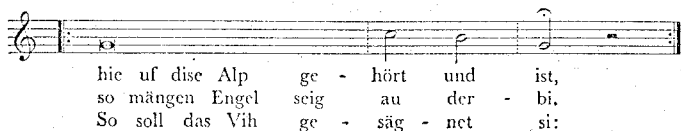
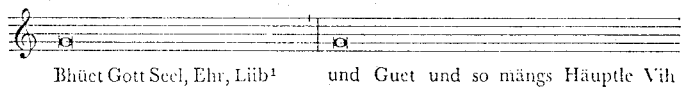
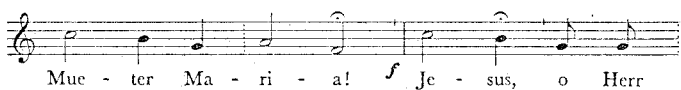
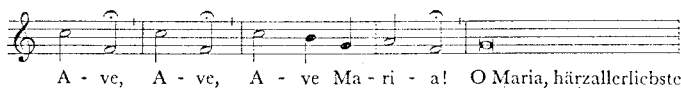
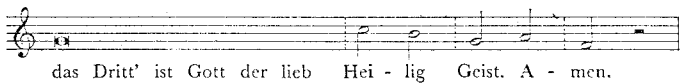
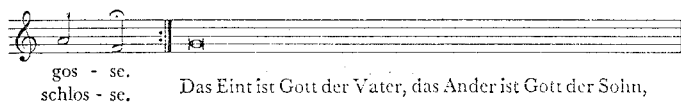
「スイス民謡文庫」SVA: ランゲンタール Langenthal, シュヴァルツェンブルク Schwarzenburg BE; ベフェルス Bevers GR; エショルツマット Escholz matt, シュップハイム Schüpfheim LU.

10. Dr Frutt Bättruf

1912 und 1913

Psalmodierend





1: Variante Lieb

10. フルットの就寝のよびかけ

おお 讃めたたえよ！

いざ 讃めたたえよ！

神のみ名により 讃めたたえよ！

おお 讃めたたえよ！

いざ 讃めたたえよ！

われらのマリヤのみ名により 讃めたたえよ！

われらの聖者たちのみ名により 讃めたたえよ！

神と聖ヴェンデル、聖アントニそして祝福されたる修道者クラウドは
みな今宵この牧場の上にあり、

人々の美しき宿りを守り給う；

牧場は神の支配したまう所、

神はこれを知り給う。

ここ牧場の上には神の玉座あり；

神とマリヤその無上に愛らしき息子と居まし給う。

マリヤはあふるる恩寵に浴す。

マリヤは聖なる三位一体を心に秘す。

第一は父なる神、第二は息子、第三は聖霊、アーメン。

アヴェ、アヴェ、アヴェ、マリヤ！

おおマリア、この上なくいとしき母なるマリア！

イエス、主イエス

ああ いとしき主イエス・キリスト！

神よ、心と、栄誉と体¹を守り給え、

神よ、財産とかくも多き牛とを守り給え、

多くの天使たちも神とともにあれ。

かくて牛たちも祝福されてあれ：

聖なる三位一体のみ名により：

1. ヴァリンテ 愛

父と子と聖霊のみ名により。アーメン。

おお ほめ讃えよ！

いざ ほめ讃えよ！

すべての営みを 神のみ名により ほめ讃えよ！

アヴェ、アヴェ、アヴェ マリヤ！

11. 's Heilig Chrütz im Äntlibuech

Entlebucher Volkssprüche

Escholzmat 1908

's walt Gott und eusi liebi Frau

und 's Heilig Bluet z'Willisau.

Und 's Heilig Sakrament z'Ettiswil

will Tag und Nacht bi-nem sii.

Und 's Heilig Chrütz im Äntlibuech

Tag und Nacht zue-n-is lueg!

11. エントリブエフの聖なる十字架

エントリブエフの小箴言詩

エショルツマツト 1908 年

神とわが愛しきマリヤ

そしてウィリザォの聖なるぶどう酒*は支配する。

そしてエティスヴィルのパン**は

昼も夜もわれらのもとにあれ。

そしてエントリブエフの聖なる十字架は

昼も夜もわれらを見守りたまえ！

* Bluet 原意は血=das Blut der Reben

** Sakrament 晩さん=Blut に対しパン

このうたは 1908 年にエショルツマツトのマリーア・ポルトマン夫人により報告された。わたしの子供のころ、わたしの母は、わたしが就寝する時に聖水——われわれはこれをイーヴァッセルとよんでいたが——これで祝福してくれながら、同じ小箴言詩をとなえた。今日なおルツェルンのヴィツゲルダールとヒンタータールでとなえられているということである。

(昭和 48 年 4 月 28 日受理)